



最初の叫びが村をつん裂いてから
次々と恐ろしい何かが起った
そしてラスト……あなたは声まで奪われる！
「エクソシスト」「オーメン」「キヤリ」を超えて
鬼才・伊藤俊也監督が挑む日本初のオカルト戦慄

いぬがみ

カラー作品

犬神

悪たたり

伊藤俊也監督作品

企画／天尾完次
脚本／伊藤俊也
撮影／仲沢半次郎
協力／喜連寺レイクホテル

- 大和田伸也
- 山内恵美子
- 長谷川真砂美
- 泉じゅん
- 三谷昇
- 小野進也
- 小林稔侍
- 白石加代子
- 川合伸旺
- 三重街恒二
- 相馬剛三
- 加藤順也
- 伊藤高
- 河合紘司
- 鈴木瑞穂
- 室田日出男
- 岸田今日子
- 小山明子

スタッフ

企 画……………天尾完次
脚 本……………安斉昭夫
監 督……………伊藤俊也
撮 影……………伊藤俊也
録 音……………仲沢半次郎
照 明……………小松忠之
美術……………小林芳雄
音 楽……………桑名忠之
編 集……………菊池俊輔
助 監……………戸田健夫
進行主任……………馬場昭裕
スチール……………松本可則
協 力……………遠藤 努
……………青蓮レックス
……………榎 垣

キャスト

加納竜次……………大和田伸也
麗子……………泉じゅん
伊藤俊也……………鈴木瑞穂
伊藤俊也……………佐和
伊藤俊也……………小島明子
伊藤俊也……………磨子
伊藤俊也……………長谷川真砂美
伊藤俊也……………室田日出男
伊藤俊也……………岸田今日子
伊藤俊也……………山内惠美子
伊藤俊也……………加藤順也
伊藤俊也……………三雲街恒二
伊藤俊也……………白石加代子
伊藤俊也……………川合伸旺
伊藤俊也……………三谷 昇
伊藤俊也……………河合紘司

かいせつ

昭和47年8月「女囚70号・さそり」が公開された時、当時の若者たち、映画ファン、マスコミはこの映画に絶大な讃辞を与えた。さそり女優梶芽衣子が誕生し、ブームを巻き起した。

昭和12年生まれの伊藤俊也監督、35才の衝撃のデビュー作であった。そして、12月に「女囚さそり・第41雑居房」、48年7月に「女囚さそり・けもの部屋」を発表、いずれも映画史上に残る傑作の評判高く、多くの観客を集めた。だが何故か、その後伊藤俊也は沈黙してしまった。

あれから4年、長い間練りあげていた構想を自ら脚色し、演出に当るのがこの「犬神の悪霊」である。日本各地に旧くから伝わる憑きもの、その神秘の、恐怖の世界に光をあて現代の息を吹き込むものである。

物語は、東京の技師とある山村の乙女との結婚から始まる。そして、それから起る異常な怖るべき事件と怪奇な現象。遂には、新妻の妹である可憐な11才の少女に、身の毛のよだつ恐怖が……。ドラマは、リアルで大胆な映像感覚で描かれる中、息もつかせずに展開していく。

ものがたり

加納竜次は、東京に本社がある東亜開発KKのウラン技師である。彼は、同僚の西岡、安井と共にウラン鉱探査のために久賀村へやって来た。三人は山あい、二人の乙女が湯浴みをしているのを見た。

それから間もなく、計器が異常に高い反応を示

し、ジープが小さなほこらをひっかけて壊した。突然、男の子が連れていた犬がジープに吠えかかった。よけそこなつた車輪は、犬を巻きこんでしまった。

一年後の秋、加納は湯浴みをして乙女のひとり麗子と結婚した。麗子の実家である剣持家は、久賀村の旧家で当主の剛造を頭に妻の佐和、次女で11才になる磨子という家族構成である。

もうひとりの乙女、垂水かおりは父の隆作・母の君代、そして、弟の勇と暮らしていたが、昔から犬神と呼ばれる一家であった。かおりと勇は、お祝いに剣持家に馳けつけたが、剛造は二人を拒んだ。

被露宴は東京のホテルで行われ、祝詞を述べる石岡が急に犬のように唸りはじめたかと思うと奇怪な動きをはじめた。静まりかえった会場で人々は恐怖にすくんだ。それが、不吉な事件が次々と起る前兆となった。

東亜開発の本社で会議中に、突風が吹きこんだように書類が舞いあがった。また、西岡は会社の36階の屋上から身を投げて死んだ。その通夜の帰り、安井の乗った車が高速道路で数十匹の野犬の群に襲われ、安井も死んだ。

加納の身を心配して、麗子は祈った。そして、古くから家に伝わるお守りを加納の首にかけ、かおりからの手紙に釘を打ち込んだ。麗子の行動が異常になった。妊娠したと思いきや彼女は一心不乱に赤ん坊の肌着を編んだ。しかし、それは四本足の上に尻尾をはやしたような奇怪な形をしていた。

すでに、焦点の定まらぬ眼をした麗子を、加納は医者から医者へ、また、憑きもの落として知られる神社や祈禱師へと連れて歩いた。恢復への希望を失った加納は、麗子を彼女の実家へと連れ帰った。憑きもの落しの行事が麗子の衰えた体に次々に加えられた。麗子は、東京へ帰りたいと言葉を最後に息をひき取った。加納は男泣きに泣いた。

磨子は、怒りに沈む加納に、かおりや勇が決して人を呪い殺したりする筈はないと訴えた。二人はともにもいい人だと。しかし、磨子はまるで予言者のように不気味に予言した。鉱業所で事故が起こると。

坑内で掘削機がひとりで動き出し、作業員の何人が犠牲になった。犬神のたたりと怖れる作業員のため、作業の遅延を鉱業所は新しい採鉱法によって切り抜けようとした。その方法は、鉱口の上から硫酸をそそぎ、下でウランの溶液を回収するということだった。所長は加納に実行を指示した。

村祭りの日、酒を飲んだ五人の村の若者がかおりを襲った。かおりは、逃げるため崖下の急流に身を投げた。彼女を救けたのは、折よく通りかかった加納だった。ひと目見た時から私は貴方が好きでした。かおりは、加納にそう告白した。

村の池一面に、魚が白い腹を上にして浮きあがった。村人たちも、原因が分らぬまま次々に死んでいった。垂水家の仕業ではないかと疑った村人たちは、仕返しを決議した。急を知らせに鉱業所へ走る磨子。水の分析によって、硫酸が原因だと気付いた加納は、垂水の家へと馳けた。だが、かおりも、君代も、勇も、すでに殴り殺され無惨な死体となっていた。加納にしがみつく磨子。ひと足遅れて畑から帰って来た隆作は、慟哭した。

犬神の呪いよ村人にたたれ！首だけ出して犬を穴に埋めた隆作は、その首を日本刀で斬り落した口をかつとあけた犬の首は、宙を舞って隆作の喉を喰いちぎった。その時、暗黒の空から稲妻がほとばしり刀を打った。その電光を写すかのように木陰から覗いていた磨子の眼が異様に光った。

鉱道が落盤を起し作業員たちをおし潰した。地下から吹きあげた火煙は夜空を焦がした。加納は、かおりたちを襲った若者のひとりを捉え駐在につき出した。それから怖ろしい出来事は次々に起った。駐在に押し寄せる村人たち。剣持家の土蔵に匿まわれていた気の狂った長男の死。その長男をかばって、剛造と佐和も死んだ。死の直前、剛造は加納に小さな磨子を頼むと言い残した。

月夜に影を映して、小さな魔ものが村を走りまわった。そのあとには、村人たちの死体がころがった。魔ものの名は磨子。しかし、その声はあの愛くるしい少女のものではなかった。

はたして——加納は？磨子は？二人の運命は最後に何かが起る！？想像を絶する何かが……